



# 環境・社会報告書 2013

環境・社会報告書 2013



株式会社ダイセキ環境ソリューション



# 未来へ

被災地では今、東日本大震災から立ち上がりつつあり、未来に向かって歩み始めようとしています。日本は経済、エネルギー、社会制度の大きな変革の時期にあり、未来に向けて舵を切り始めてます。当社も、2年後の第20期を節目に、未来、次の成長に向けて地図を広げています。

力強く、堂々と咲き誇るチューリップのように、私達も胸を張って未来に向かって成長していきたいと思えます。

(写真: 関西事業部 技術課 永田和史)



## 編集方針

本報告書は、ステイクホルダーの皆様にご理解いただくこと、および当社全社員の意識向上を図ることを目的として発行しています。また、例年通り報告書の作成は当社社員のみで行い、より会社の雰囲気や情熱が伝わるものを目指して作成致しました。

毎年皆様からいただいたご意見を参考に紙面や取組の向上を図っております。巻末にアンケートがございますので、ご一読いただいた後にご意見や感想がありましたら是非お聞かせください。(編)



## 目次

	ページ
<b>●はじめに</b>	
会社概要	1
事業のあゆみ	2
トップメッセージ	3
事業紹介	5
<b>○特集</b>	
津波堆積物減容化事業	7
株式会社グリーンアローズ九州	10
<b>●環境活動報告</b>	
環境マネジメント	11
マスマランス	12
CO <sub>2</sub> 削減	13
目標と実績	14
環境負荷と取組	15
<b>●社会性報告</b>	
コーポレートガバナンス	19
コンプライアンス	19
教育	20
コミュニケーション	21
安全衛生	23
働きやすい職場づくり	25
社会貢献活動	26
第三者コメント	27
事業所別環境測定データ	28
アンケート結果・編集後記	29

発行日	平成 25 年 11 月 14 日
対象期間	平成 24 年 3 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日
対象範囲	株式会社ダイセキ環境ソリューション名古屋本社、東京本社、関西支社、九州支店、東北支店、名古屋リサイクルセンター、大阪リサイクルセンター、横浜リサイクルセンター、バイオエナジーセンター、株式会社グリーンアローズ中部 *ただし、一部対象期間・範囲外の活動及び実績にも言及しています。
作成部門	環境・社会報告書 2013 作成委員会
連絡先	環境事業本部 技術開発部 環境課 TEL: 052-611-6332(ダイヤルイン) FAX: 052-611-4022 E-mail: info@daiseki-eco.co.jp

## 会社概要

商 号 株式会社ダイセキ環境ソリューション

(東京・名古屋証券取引所1部

証券コード 1712)

代表者 代表取締役社長 二宮利彦

設 立 平成8年11月1日

資本金 14億4,692万1千円

従業員数 92名(平成25年2月末現在)

業務内容 土壌汚染調査および対策工事、汚染土壌処理、  
産業廃棄物処理および収集運搬、環境分析、  
水銀リサイクル、環境コンサルティング、  
廃石膏ボードリサイクル、  
バイオディーゼル燃料製造販売

### 所在地

本 社 名古屋市港区船見町1番地86

東京本社 東京都港区芝浦3丁目14番19号8階

関西支社 大阪市大正区南恩加島7丁目1番82号

九州支店 福岡県糟屋郡宇美町ゆりが丘2丁目7番15号

東北支店 仙台市若林区卸町東1丁目3番12号

<リサイクルセンター>

横 浜 横浜市鶴見区生麦2丁目2036番地50

名 古 屋 愛知県東海市新宝町29番地1

大 阪 大阪市大正区南恩加島7丁目1番82号

<バイオエナジーセンター>

愛知県東海市浅山3丁目203

URL <http://www.daiseki-eco.co.jp>

### グループ会社

株式会社グリーンアローズ中部

愛知県東海市南柴田町ホノ割213番地の7

URL <http://www.daiseki-eco.co.jp/gac/>

株式会社グリーンアローズ九州

福岡県糟屋郡宇美町ゆりが丘2丁目7番15号

URL <http://www.daiseki-eco.co.jp/gak/>

株式会社ダイセキ

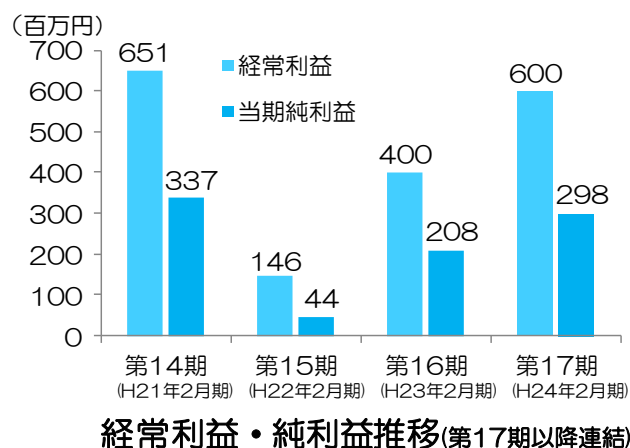
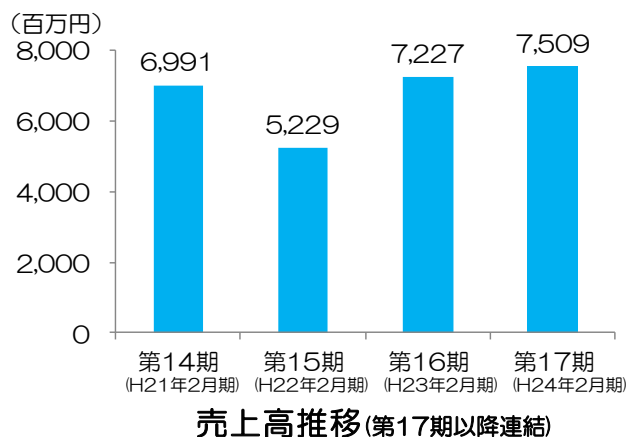
愛知県名古屋市港区船見町1番地86

URL <http://www.daiseki.co.jp/>

北陸ダイセキ株式会社

株式会社ダイセキMCR

システム機工株式会社



## 事業のあゆみ

当社は設立以来一貫して、環境問題に対する解決策(ソリューション)を提案して参りました。これからも、今社会で求められていることと、未来のために今必要なことを見据え、環境フロンティア企業を目指して参ります。

平成 25 年

仙台津波堆積物減容化事業 (p. 7) を開始  
(株)グリーンアローズ九州操業開始

平成 24 年

BDF 事業部を立ち上げ、  
バイオディーゼル燃料製造販売事業 (p. 6) を開始

平成 23 年

東北支店開設

平成 22 年

九州支店開設

平成 21 年

(株)グリーンアローズ中部を設立し、  
廃石膏ボードのリサイクル事業 (p. 6, 10) を開始

平成 20 年

東京・名古屋証券取引所 1 部に市場変更

平成 19 年

大阪リサイクルセンター操業開始

平成 16 年

東京証券取引所マザーズに上場  
横浜リサイクルセンター操業開始  
名古屋リサイクルセンター操業開始  
(株)ダイセキ環境ソリューションに改称

平成 11 年

蛍光灯リサイクル事業 (p. 6) を開始  
土壌汚染対策事業 (p. 5) を開始  
「株式会社ダイセキ環境エンジ」に改称

平成 8 年

株式会社ダイセキの施設管理会社として  
「株式会社ダイセキプラント」設立



仙台津波堆積物減容化事業



グリーンアローズ九州



バイオエネルギーセンター



グリーンアローズ中部



大阪リサイクルセンター



横浜リサイクルセンター



名古屋リサイクルセンター



名古屋本社(北工場)



土壌汚染対策事業



名古屋本社



## トップメッセージ



## 転換の時代 次の成長を 未来へ

株式会社ダイセキ環境ソリューション  
代表取締役 二宮 利彦

### はじめに

環境・社会報告書もおかげさまでもちまして今年で5回目の発行となります。振り返れば、皆様に私たちダイセキ環境ソリューションのことをよく知っていただきたいと報告書の製作すべてを社員の手で行うことからスタートいたしました。その創刊号となった『環境・社会報告書 2009』では、日本を含めた世界経済が大打撃を受けたリーマン・ショックの直後で、激変する環境の中では成長のために変化に対応することが必要だとお話しし、2010年には不況時にこそ新しい芽が出る「改善と挑戦のとき」というお話をしました。現在、そうした経営環境が難しい中でまた種からいくつもの芽が出てきており、これからそれらをさらに大きく育てていきたいと思えます。そして新規事業だけでなく、逆風の中でも根に蓄えていた力を発揮して既存事業の幹を今、ひとまわり成長させるときだと考えています。

また、日本中が深い悲しみに暮れた東日本大震災が起きた2011年には、まだ当社にお手伝いできることを探している段階で、それをもどかしく思いながら本コメントを記したことを今でも忘れません。あれから2年と半年が経ち、最近では被災地復興の話題も増えてきて喜ばしい限りです。本文でも触れておりますので詳細は割愛しますが、当社でも本年より被災地で津波堆積物処理のお手

伝いをさせて頂いております。まずはこの場をお借りして、当社に事業をお任せくださいましたみなさま及びパートナーである仙台環境開発(株)様、当社を応援してくださいました全ての方々に厚く御礼申し上げます。

### 現在の事業内容とその拡大

主力の土壌汚染対策事業及び産業廃棄物の処理では、当初は東京、大阪、名古屋を拠点に事業展開しておりましたが、創業時より磨いてまいりました技術力とお客様の信頼を強みに、現在では南は福岡県に九州支店、北は仙台市に東北支店と営業範囲を拡大しております。その他にも、創業当初より始めた廃乾電池や廃蛍光灯の回収事業の他、グループ会社の㈱グリーンアローズ中部による廃石膏ボードのリサイクル事業、そして昨年度は廃食油のリサイクルとしてバイオディーゼル燃料製造販売事業を展開してまいりました。また、今年3月には廃石膏ボードリサイクル事業を拡大して福岡県に㈱グリーンアローズ九州を立ち上げています。さらに、2010年に廃棄物処理業界の雄である㈱タケエイ様と業務提携を締結し、2013年からは前述のように仙台環境開発(株)様と共同事業を行っております。私たちは、これからも良きパートナーと共に更なる環境問題のソリューション(解決)を図って参ります。

## 第二の創業期に向けて

当社は平成8年設立の、まだまだ成長途上の若い会社です。汚染土壌や産業廃棄物というあまり一般に馴染みのないものを扱っておりますので、特にお客様の信頼が重要であると考え、設立当初から株式上場を目標にして参りました。社員一丸となって無我夢中で取組み、平成20年に東証・名証一部上場を果たしたときには本当に嬉しかったものです。株式上場は、私以上に社員にとっての自信となり、それがその後の会社を成長させる基盤となったのだと振り返ります。

設立、上場と時が経過し、当社は現在第18期を進行中です。私たちはさらなる会社の成長のために、第20期を第二の創業期と位置づけ、それまでの2年間に、当社のあるべき将来像、進むべき道を社員みんなで創造するプロジェクトを今期スタートいたしました。社員一人ひとりが希望と誇りをもって仕事ができる、当社にかかわるステークホルダーのみならず幸せになれる、そんなビジョンを社員全員参加で創り上げる一大プロジェクトです。どんな形のものが出来上がるか、私自身も期待で胸が膨らんでおります。新しいビジョンの下に、私どもも第二の創業期を迎えて次の新しい未来へ羽ばたいていければと考えています

ので、当社のこれからの活躍に是非ご期待頂ければと思います。

## 2013年環境報告書「未来へ」

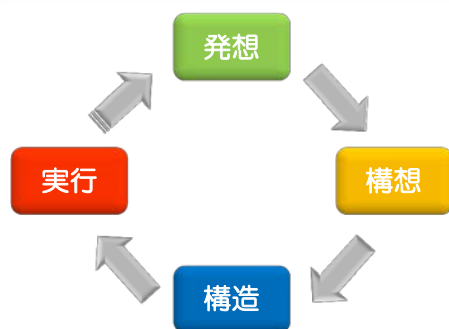
今年度は、この環境・社会報告書のテーマを『未来へ』と致しました。このテーマには、日本が震災やエネルギー問題など、苦しさや難しい問題の中にあっても、前を向き、次のステージへ、未来へ進んでいこう、という思いが込められています。

本報告書は前述のように自社の社員のみで毎年作成しており、環境報告及び社会性報告だけでなく、当社の事業紹介も兼ねたものになっています。私たちは、自分たちが本業をがんばればがんばるほど世の中の環境は良くなる、という思いをもって日々の業務を行っております。本『環境・社会報告書2013』を通して、当社の取り組みについてさらにご理解を深めて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、ステークホルダーの皆様には、平素より当社の事業へのご理解とお力添えを頂戴いたしまして深く感謝申し上げます。当社もその期待に応えられるよう、日々精進して参りますことをここにお約束致します。

### 経営理念

一つの**発想**が湧いてくれば、それに対して種々の**構想**を練り、実現のための組織、その他の**構造**を組み立てる、そして**実行**する。



### 行動憲章

ダイセキ環境ソリューションでは、経営責任者をはじめとする役員が遵守すべき社会のルールとして倫理憲章・行動規範を定めています。

#### 1.社会的役割と責任

環境問題の解決に取り組む会社としての社会的役割と責任を十分認識し、自己責任原則に基づく健全で適切な企業行動を実践することで社会の信頼に応えます。

#### 2.法令等の遵守

法令や社内ルールを厳格に遵守し内部統制に努め、適切な業務と誠実で公正な企業活動を遂行します。

#### 3.人権の尊重と自由闊達な企業風土の醸成

人権を尊重し働きがいのある自由闊達な企業風土の醸成に努めます。

# 事業紹介

## 土壌汚染対策事業

工場廃止あるいは土地売買などの際に、法令や土地購入者から土壌汚染調査を求められることがあり、汚染物質の基準値超過が確認された土壌に対しては適切な措置が必要になります。当社は、土壌汚染対策のコンサルティング、調査、分析、対策・措置、処理を一貫して提供しています。また、建設工事現場などで見つかった汚泥や燃え殻などの埋設廃棄物も、法令に基づき適正に処理しています。

### コンサルティング

お客様の目的に合わせた調査内容と調査から対策までの流れをご説明します。ここから調査完了及び対策完了の報告までを責任を持ってサポートしています。



### 調査

#### 1 履歴調査

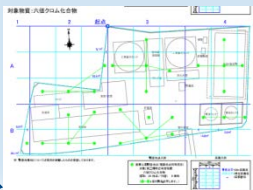
登記簿や航空写真等資料、現地踏査、ヒアリングから汚染の可能性を調べます。

#### 2 概況調査 (サンプリング)

メッシュの区画ごとに表層の土壌と土壌ガスを採取します。

#### 3 詳細調査 (サンプリング)

概況調査で汚染が判明した場合、さらに土壌汚染の到達深度・地下水汚染の有無等を調査します。



1



### 分析

採取した土壌や土壌ガス、地下水を土壌汚染対策法等に準拠し、指定有害物質の分析を行います。



2,3

### 対策・措置

#### [オンサイト処理]

汚染土壌をその場から動かさず、現地で浄化や封じ込めを行う対策です。主な工法は次のとおりです。

- フェントン工法\*1
- エアースパーキング工法\*2
- バイオ-レメディエーション工法\*3

#### フェントン工法



#### [掘削除去処理]

#### 掘削除去

汚染土壌を掘削して搬出し、汚染土壌処理施設などで処理します。

汚泥や燃え殻などの埋設廃棄物についても、掘削して産業廃棄物処理施設で処理します。



#### 汚染土壌処理 (各リサイクルセンター)

#### ●加熱-抽出処理

薬剤混合による水和熱を用いてVOC(揮発性有機化合物)を抽出、除去します。



#### ●洗浄

(名古屋リサイクルセンターのみ)  
水洗浄により、重金属を除きます。重金属は水処理工程を経て濃縮して処分します。

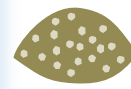


#### ●セメント原料化

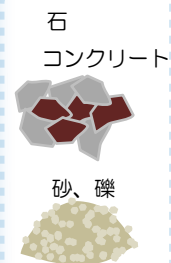
汚染土壌や産業廃棄物中の異物を除去し、含水調整してセメント原料としてリサイクルします。



●埋戻し土



●建設骨材



セメント



(セメント工場にて)

\*1 フェントン工法：薬剤注入によりVOCを酸化分解します。 \*2 エアースパーキング工法：地下水に空気を吹き込み、VOCを揮発させ、ガスを回収します。 \*3 バイオレメディエーション工法：栄養剤を注入し、微生物を活性化させ、VOCを分解させます。



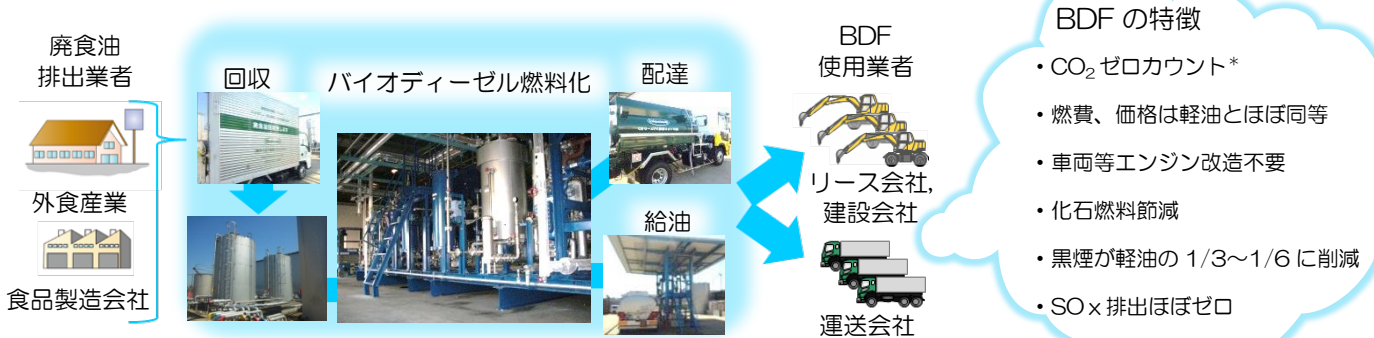
### 蛍光灯・乾電池・バッテリー等のリサイクル事業

当社は廃蛍光灯や廃乾電池等の水銀含有物、および鉛が使われている廃バッテリーの収集運搬と選別による中間処理を行っています。それらは当社で処理後、水銀のリサイクルを行う野村興産(株)や鉛のリサイクルを行う(株)ダイセキ MCR (グループ会社)などで資源回収されて再生利用されています。



### バイオディーゼル燃料製造販売事業

外食産業等の廃食油排出業者から回収した廃食油(使用済み天ぷら油)を原料として、バイオエナジーセンターでバイオディーゼル燃料(BDF：軽油代替燃料)を製造します。製造した BDF は重機や運搬車両をお使いの業者に販売、配達しています。



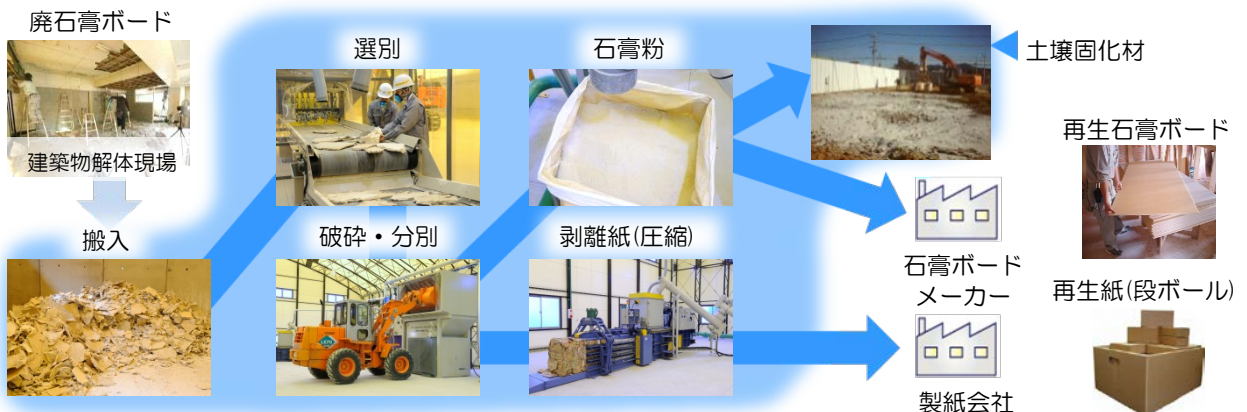
- BDF の特徴**
- ・CO<sub>2</sub> ゼロカウント\*
  - ・燃費、価格は軽油とほぼ同等
  - ・車両等エンジン改造不要
  - ・化石燃料節減
  - ・黒煙が軽油の 1/3~1/6 に削減
  - ・SOx 排出ほぼゼロ

\*廃食油 BDF の燃焼により発生する CO<sub>2</sub> は、食用油の原料である大豆や菜種などの植物が大気中から吸収した CO<sub>2</sub> 由来のものです。したがって、BDF 使用による CO<sub>2</sub> は、地球環境中(地上)の CO<sub>2</sub> を増加させないとされています。

### 廃石膏ボードのリサイクル事業

住宅やビルの壁材・床材として多用されている石膏ボードは近年増加傾向にある廃棄物ですが、現在リサイクル先が不足しています。当社は、グループ会社の(株)グリーンアローズ中部および(株)グリーンアローズ九州において、廃石膏ボードを石膏粉と剥離紙に分離し、原料として再生しています。

\*特集記事もご参照ください



# 津波堆積物減容化事業

2011年3月11日に起きた東日本大震災後、当社は東北支店を開設して産業廃棄物処理を中心に震災復興事業に全社をあげて取り組んで参りました。その中で、2013年3月より仙台環境開発(株)との共同事業で、仙台市の津波堆積物(土砂)の埋立量の減容化処理を行っています。

## 背景

仙台市では、地震と津波により推計で震災廃棄物(がれき)が135万トン、津波堆積物(土砂)が130万トン発生しました(仙台市推計\*)。それらのうち、リサイクルできない不燃物は市内の埋立処分場に埋め立てられ、右写真のように処分場を圧迫しています。



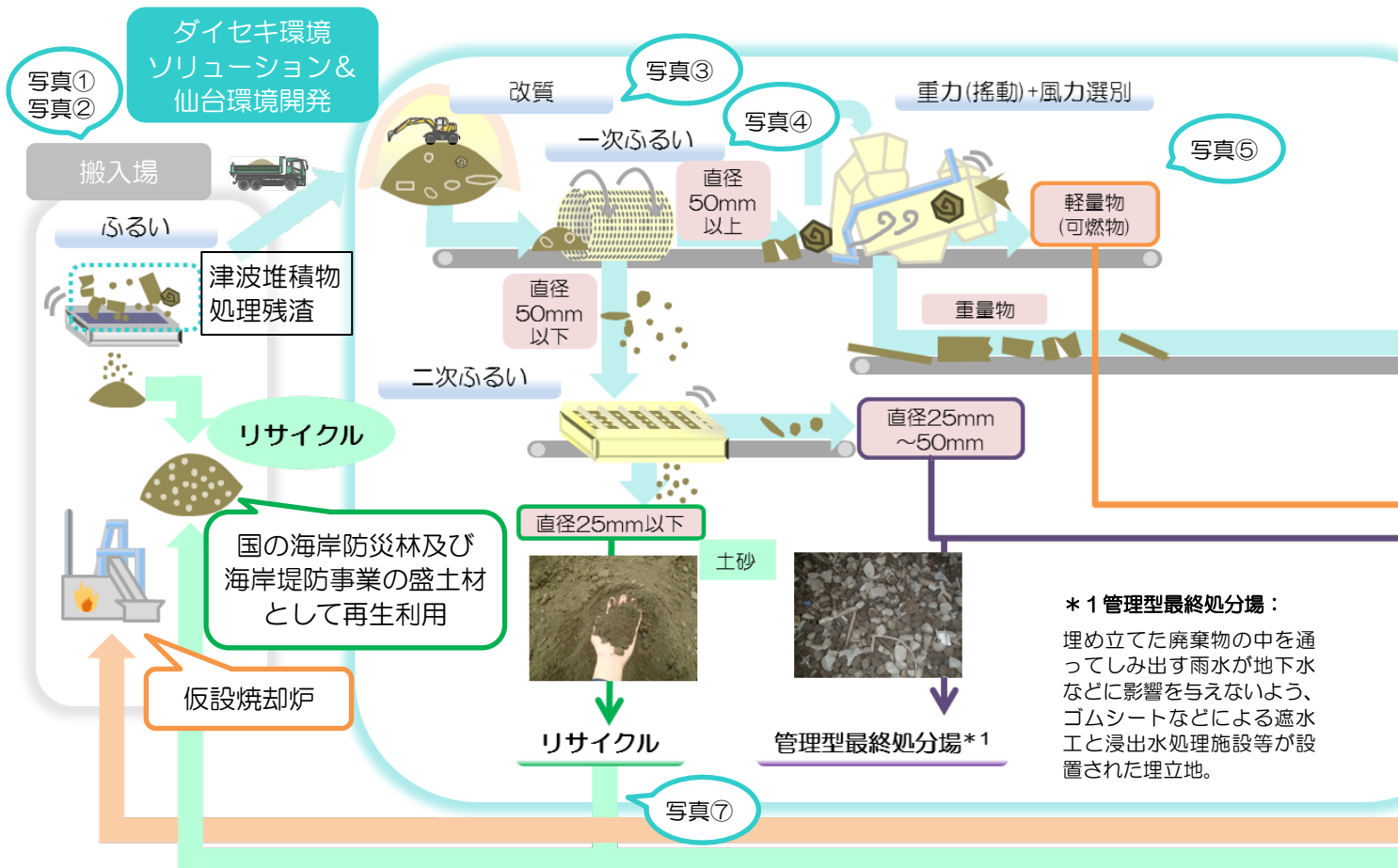
**市内の埋立処分場(管理型最終処分場)**  
震災前後で埋立量が年間13万m<sup>3</sup>から25万m<sup>3</sup>に倍増し、2013年5月現在約81%までが埋まっています。

そこで当社は汚染土壌から異物を取り除く技術を生かして、がれきが混じった土砂である津波堆積物の埋立量の減容化に取り組みました。

\*仙台市HP 震災廃棄物(がれき)の処理  
[http://www.city.sendai.jp/sumiyoi/gomi/shori/1203402\\_1565.html](http://www.city.sendai.jp/sumiyoi/gomi/shori/1203402_1565.html)

## 事業内容

津波堆積物は、仙台市により整備されたがれき搬入場で一度ふるわれ、ふるいの目を通った土砂は復興工事資材としてリサイクルされます。通らなかったもの(津波堆積物処理残渣)は当初は全量埋め立てられていましたが、当事業においては、それらを新設の減容化施設に搬入して、さらに二度ふるい、揺動と風、磁気等の機械による選別と、人の手による選別を行っています。細かく選別することで各選別物に合ったリサイクル方法や処分方法をとることができ、埋立量を減らすことができます。当事業により、当初全量埋立処分する予定であった搬入物の7割以上をリサイクルし、埋立処分するものを2割以下に抑えることが可能になりました。







- ① 仙台市井土搬入場全景 (中央は仮設焼却炉)
- ② 処理前津波堆積物
- ③ 改質ヤード
- ④ 一次ふるい、二次ふるい
- ⑤ 揺動+風力選別
- ⑥ 手選別ライン
- ⑦ ふるわれた土砂の積み込み

図 津波堆積物処理残渣減容化処理フロー

**本事業の特徴**

- ・高い選別力  
→埋立量減、リサイクル率UP
- ・一日の処理量は500t以上  
→処理期間短縮



\*2 スレート材：  
屋根等に用いる石質の薄い板状の部材。  
古いものはアスベスト含有の可能性がある。

\*3 安定型最終処分場：  
地下水などを汚染する恐れのないものを埋め立てる。木くずなどの有機物は分解によるガス発生の恐れがあり埋め立てることができない。

## VOICE 社員から

がれき処理は震災復興の大きな妨げとなっています。いち早くがれきを撤去し「復旧」から「復興」へ導くことは東北の方々の切実な思いなのですが、未曾有の震災で難しい状況もあり、なかなか進まないこともあります。そのような中で、仙台市は震災直後から職員の方々の並々ならぬ献身もあり、今年度中に処理を完了させ本格的な復興事業の序章に取りかかろうとしています。

その中で、当社としてはもちろんですが、それ以上に私個人としても使命感をもって当事業に臨み、そして今、復興事業の最前線に立てることに感謝の気持ちでいっぱいです。とはいえ、当社としても震災がれき処理は未経験であり、また公共性の高い事業ですので、正直なところどこまでできるのか、構想段階では全く見当が付きませんでした。しかし、当事業のパートナーは“東北産廃業界の雄”仙台環境開発さんですので、その点では大変心強く、また実際事業が始まってからの仙台環境開発さんの動きは素晴らしく、いろいろ勉強させていただくとともに、本当にいいお相手と組ませていただいたと実感しています。

また、手選別ラインは地元の方々を採用し、ご活躍いただいています。中には被災された方もいらっしゃるのですが、週6勤ほとんど休みも取らず、黙々と分別作業をする姿はまさに“東北人魂”であり、見習わせていただいています。

今回の事業を通じて、仙台環境開発さん初め多くの方々のお世話になり、どうにか事業を軌道に乗せることができました。今後は東北の方々への感謝の気持ちと、このご縁を大切に、まだまだ、何かお役に立てることはないか考えていきたいと思えます。



東北支店 シニアマネージャー  
減容化PJ 副所長  
水野 雅庸

## INTERVIEW パートナーから

今回パートナーとして当事業を行っている仙台環境開発株式会社 上野専務取締役にお話を伺いました。

### ○仙台環境開発株式会社とはどのような会社ですか？

神奈川から一部青森まで東日本全域にわたり、主に産業廃棄物を受け入れる管理型最終処分場の運営管理、また建築物の解体からその廃棄物のリサイクル・埋立までを請け負っています。震災後は三日目から、震災で発生した廃棄物の仮集積所を公園や広場に設営して管理を行いました。現在も一時的な許可をいただいて震災関連廃棄物を扱っています。

### ○当社と協力して事業を行っているメリットはなんですか？

今回受けさせていただいているのがれき混じりの土砂ですので、土の扱いが得意な(株)ダイセキ環境ソリューション(以下ソリューション)さんが技術的な側面を担当し、当社はヤード等自社設備と地元輸送ネットワークを活かすことでお互いをうまく補い合えたと思います。また、相当量を扱える大きなプラントの設備投資費についても、一社では難しいものでした。

### ○今後の当社とどのようなことに取り組みたいですか？

今後もソリューションさんと協力することで、廃棄物を埋めるだけでなく更に中間処理を強化し、リサイクルをすすめていきたいと考えています。また、「廃棄物処理業」というと製造業などに比べると社会認知度なども低いのが現状です。しかし社会全体が環境問題解決や循環型社会実現に向かっている現在、非常に重要な産業であるという自負があります。これから、ソリューションさんのような志を共にしている企業さんと協力して、できることの範囲を広げることでより多くの社会的ニーズにお応えし、一般の皆様にも認められるようになっていきたいという夢を描いています。

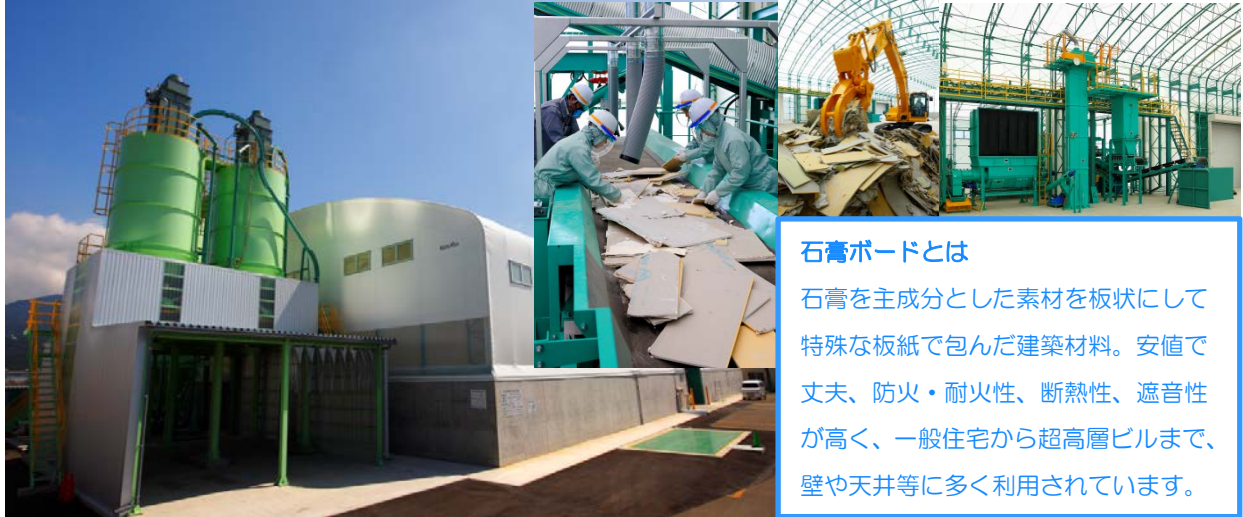


仙台環境開発株式会社  
専務取締役  
宮城県震災廃棄物処理共同企業体  
理事長  
上野 篤 様



# 株式会社グリーンアローズ九州

当社は単なる廃棄物処理業ではなく、廃棄物を再資源化して社会に還元するリサイクル企業を自任しています。そのひとつとして、建物解体時に発生する廃石膏ボードのリサイクル事業を行っています。中部地区に続き、平成 25 年 3 月、福岡県に (株)グリーンアローズ九州を設立いたしました。



**石膏ボードとは**  
 石膏を主成分とした素材を板状にして特殊な板紙で包んだ建築材料。安値で丈夫、防火・耐火性、断熱性、遮音性が高く、一般住宅から超高層ビルまで、壁や天井等に多く利用されています。

今後、石膏ボードを使用した建物の老朽化、解体に伴い、廃石膏ボードの排出量は益々増えてくると考えられています【図 1】。しかし、廃石膏ボード処理においては処理量 5 t / 日未滿の処理施設が圧倒的に多く、また加工後のリサイクル先の確保が難しいためなかなかリサイクルが進んでいないのが現状です。

当社は、中国・九州地方においても廃石膏ボードの受け皿として、それらの適正処理とリサイクルを推進していきたいと考えています。(株)グリーンアローズ九州は敷地面積約 8,300m<sup>2</sup>、建物面積 2,400m<sup>2</sup>、処理量は日量 117.4t という国内最大級の規模を誇っており、廃石膏ボードを石膏ボード原料と古紙原料へと効率的にリサイクルします (p. 6 事業紹介もご参照ください)。また、中部地区での経験を活かし、建設業者(排出元)・中間処理業者(収集運搬など)・石膏ボードメーカー(受入先)と協力して、確実なリサイクルルートを確認しております。

## VOICE 社員から

このたび、多くの方のご支援を受けて、今年 3 月より(株)グリーンアローズ九州を設立する運びとなりました。この場をお借りして皆様にお礼申し上げます。

当社は、廃棄物の減量や再資源化を通じての社会貢献という大志を抱いておりますが、工場周辺のみなさまにご迷惑をおかけしては意味がありません。工場の操業にあたり、粉じんの飛散防止及び騒音の低減のため、作業工程のほぼ全てを屋内で行うことや、生活道路には車両を乗り入れないことなど周辺環境への配慮を徹底しております。

これからも地域に根差す企業として、また近い将来、自他共に認める西日本最大の廃石膏ボードリサイクル工場になれますように、日々頑張っ参ります。



(株)グリーンアローズ九州  
 取締役事業本部長  
 松竹 冬樹

今後、廃石膏ボード  
 排出量は増加見込み

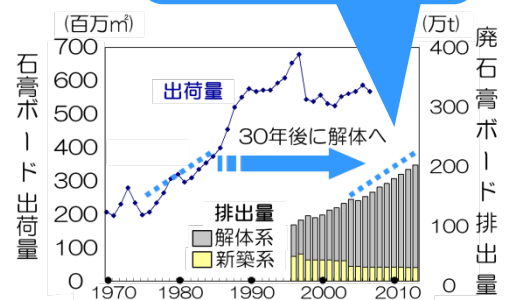


図 1 石膏ボード出荷量と廃石膏ボード排出量

データ：(社)石膏ボード工業会統計より

解体系：建築物解体の際に排出される古い石膏ボード  
 新築系：建築の際に排出される新しい石膏ボードの端材

# 環境マネジメント

当社は環境保全を業務とする企業として、自社の環境管理を特に重視しています。事業を行うにあたり ISO14001 を取得し、以下の環境方針を定めて事業活動により生じる環境への影響を持続的に改善するシステムを構築しています。

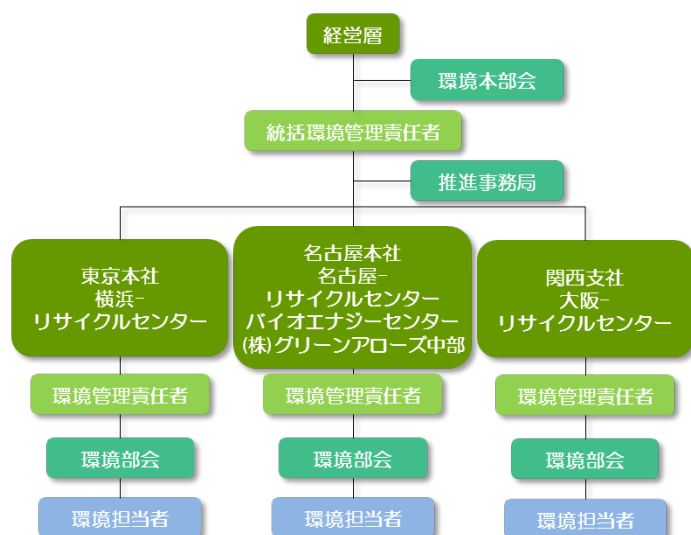
## 環境方針

1. 地球温暖化の防止に資するため、当社の事業活動で消費するエネルギーで特に電気および燃料の使用量の削減に努めます。
2. 土壌汚染調査、汚染土壌および産業廃棄物の収集運搬・中間処理の作業を適正かつ安全に行うと共に、不必要なムダを改善して作業の効率化を図ります。
3. 当社で発生する廃棄物の抑制を図ると共に、受け入れた汚染土壌および廃棄物のリサイクル率を高めるための処理技術の向上に努めます。
4. 土壌汚染調査、汚染土壌および産業廃棄物の収集運搬・中間処理の中で、粉じん等の環境負荷の低減及び環境汚染の予防に努め、これらの継続的改善を図ります。
5. 環境側面に関する法規制の他、お客様とのお約束事項、および当社が定める自主管理基準値を順守します。
6. 当社および当社関連する組織の環境目的・環境目標を設定し、見直しを行います。

平成 18 年 5 月 15 日制定、平成 25 年 3 月 15 日改定

### 環境マネジメントシステム組織体制

当社の環境マネジメントシステムでは、経営層の下に統括環境管理責任者を置いて、Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価)→ Act(改善)の PDCA サイクルを効率的に回せる組織体制を組んでいます。



### ISO14001 の登録状況

平成 14 年の名古屋本社登録以来、新拠点を置くたびに、拡大登録して参りました。今年度、バイオエナジーセンターを拡大登録予定で申請を行っています。

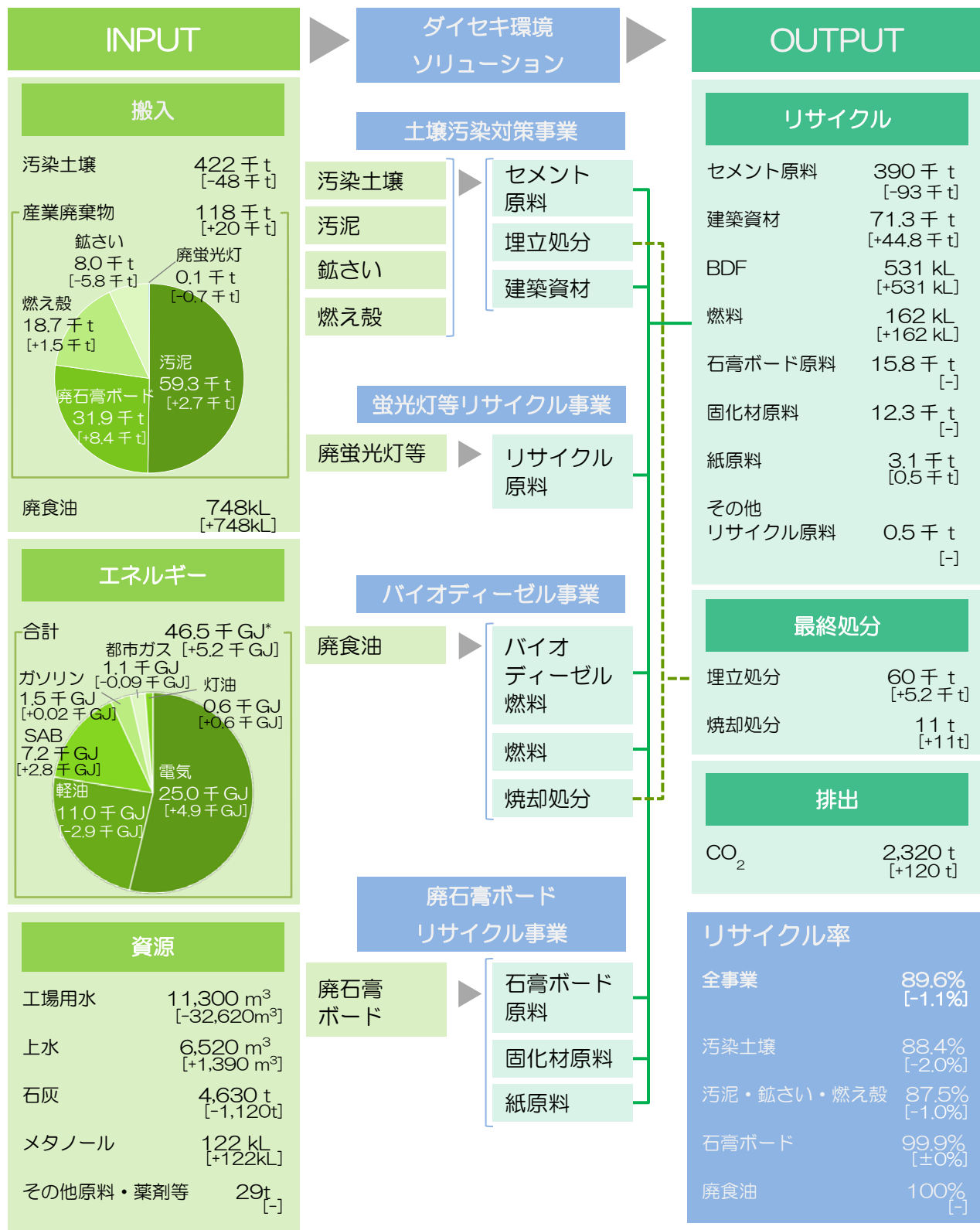
- 平成 14 年 (株)ダイセキ名古屋事業所の関連事業所として認証登録。(JQA-EM2116)
- 平成 18 年 東京本社、横浜リサイクルセンター、関西支社を登録。
- 平成 18 年 (株)ダイセキから独立して認証登録。(JQA-EM5648)
- 平成 20 年 大阪リサイクルセンターを登録。
- 平成 21 年 (株)グリーンアローズ中部を当社関連事業所として登録。
- 平成 25 年 バイオエナジーセンターを申請。



# マスバランス

当社はマスバランス(物質収支)を明らかにすることで、事業活動に伴う環境負荷の把握に努めています。環境負荷の傾向を数値化することで、対策を講じることができます。対策につきましては、p. 14の「目標と実績」をご覧ください。

[ ]の中は前年度比



(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日までの集計)  
\*エネルギー種別発熱量は『エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則』の換算係数に準拠して算出しています。

## CO<sub>2</sub>削減

当社は事業活動にともなうCO<sub>2</sub>排出量を把握し、その削減に積極的に取り組んでいます。

### 事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量

平成24年度は、CO<sub>2</sub>総排出量、売上当たりCO<sub>2</sub>排出量ともに平成23年度より増加しました【図1】。CO<sub>2</sub>総排出量増加の理由は、次項の通りです。

### エネルギー別CO<sub>2</sub>排出量

図2より、当社では、電気と軽油がCO<sub>2</sub>発生量に大きく寄与していることが分かります。

電気によるCO<sub>2</sub>排出量が年々増加しているのは、電気を多く使う①廃石膏ボード処理施設での受け入れ量と②リサイクルセンターでの土壌の洗浄比率が増えているためです。軽油は主に各工場の重機に使用していますが、平成24年度にCO<sub>2</sub>排出量が減少しているのは一部軽油をバイオディーゼル燃料(BDF; p.6 参照)に変更したためです。また24年度よりBDF事業の開始に伴い灯油を使用しています。

これらの差引により平成24年度のCO<sub>2</sub>総排出量が増加しました。

### 委託輸送にかかわるCO<sub>2</sub>排出量

当社が他業者様に委託して汚染土壌や産業廃棄物を運んでいただく過程でもCO<sub>2</sub>が発生します【図3】。当社が直接排出するCO<sub>2</sub>総量【図1】の3.5倍以上となっていることを意識する必要があります。

平成24年には前年度よりCO<sub>2</sub>総排出量は減少し、輸送効率もよくなりました。これは、輸送効率のよい船舶による輸送の割合が増加したためです。

(図3注) \*エネルギー使用量/輸送トンキロ (単位はリットル) : 1tのものを1km運ぶのにかったエネルギー(重油換算)  
これが低い=燃費が良く、輸送効率が良い。算出方法は「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(省エネ法)に準ずる。

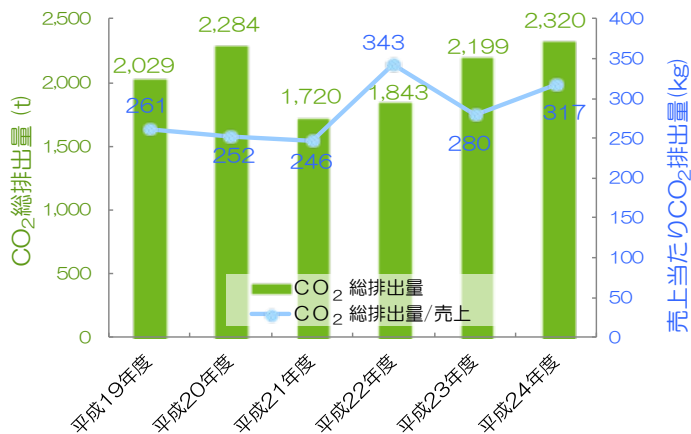


図1 事業活動に伴うCO<sub>2</sub>総排出量

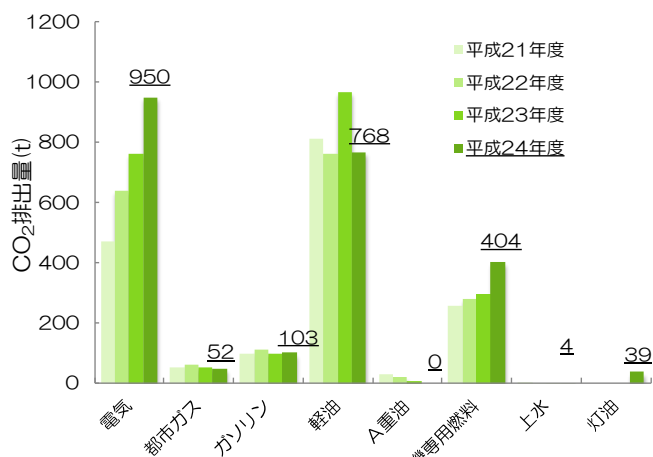


図2 エネルギー別CO<sub>2</sub>総排出量(4年分)

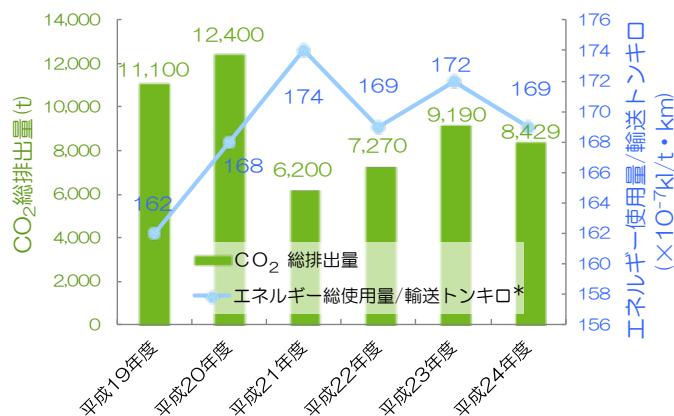


図3 委託輸送にかかわるCO<sub>2</sub>総排出量

CO<sub>2</sub>が多く発生する場合でも土壌や廃棄物のリサイクル率が上がる場合もあり、CO<sub>2</sub>排出量増減のみで環境への良し悪しの判断は難しいといえます。しかし、今後も各事業所、各工場で詳細に記録と分析を続け、同じ工程でもCO<sub>2</sub>排出量を減少させる取り組みを行って参ります。



## 目標と実績

事業活動に伴う環境負荷の低減は事業者の責任です。各テーマ毎に目標を設定して環境負荷の低減のために取り組んでいます。

目的	対象	取組内容	平成24年度目標	結果	判定	平成25年度目標
省エネルギー・省資源による地球温暖化の防止	電気使用量 (売上当り)	不要な照明の消灯 作業の効率化	5%増以下	7%増	×	1%減
	化石燃料使用量 (入荷量当り)	BDF使用 アイドリングストップの推進	15%減	19%減	○	1%減
	CO <sub>2</sub> 排出量 (売上当り)	BDF使用 作業効率の改善	5%減	10%減	○	1%減
	委託輸送に係るエネルギー (輸送トンキロあたり)	各事業所との連携 委託業者への協力要請	0.5%減	0.43%減	×	平成21-24年度平均の1.25%減
廃棄物の抑制	リサイクル率 (入荷量当り)	分別の徹底	86%以上	91%	○	91%
環境汚染の予防	粉じんの苦情件数	監視、清掃の実施 (p.16参照)	0件	0件	○	0件
循環型社会に貢献	グリーン購入率	購入先の見直し 購入品の変更 (p.18参照)	78%以上	81.1%	○	79%

\* 3年内の平均的な業務量の年度を基準年度としています。

### 達成できた点

#### ○入荷量当たり化石燃料使用量減少

#### ○売上あたり CO<sub>2</sub> 排出量減少

重機に使用する軽油の一部をバイオディーゼル燃料(BDF)に変えたことにより、CO<sub>2</sub> 排出量が削減できました(p. 13 参照)。BDF は当社のバイオエナジーセンターで製造したものです。廃食油から作られるため、化石燃料と異なり地上の炭素量を増やしません(カーボンニュートラル)。

#### ○入荷量当たりリサイクル率向上

特に横浜リサイクルセンターにおいて、埋立処分からセメント原料へとお客様のリサイクルのニーズが高まったためです。

#### ○粉塵の苦情 0 件

当社では、平成 20 年の3件の苦情発生以来、集塵機やミストの導入など特に粉塵抑制の取組を強化しております(p. 16 参照)。以後、平成 24 年まで苦情は発生しておりません。

### 達成できなかった点

#### ×売上あたり電気使用量増加

p. 13 にあるように、廃石膏ボード処理施設及び土壌洗浄施設の入荷量が増えたため電気使用量が増加しました。

#### ×委託輸送にかかわるエネルギー減少目標未達

エネルギー効率のよい船舶輸送を増やすことができましたが(p. 13 参照)、陸送も同様に増えたことで目標には達することができませんでした。

今後も業務量や業務内容の変化を勘案しながら年度毎に適切な目標を設定し、各部門において目標達成のために取り組んで参ります。



## 環境負荷と取組

当社の工場、現場（土壌汚染調査と対策工事）、環境分析、営業、オフィスにおける環境負荷とその低減のための取組をご紹介します。

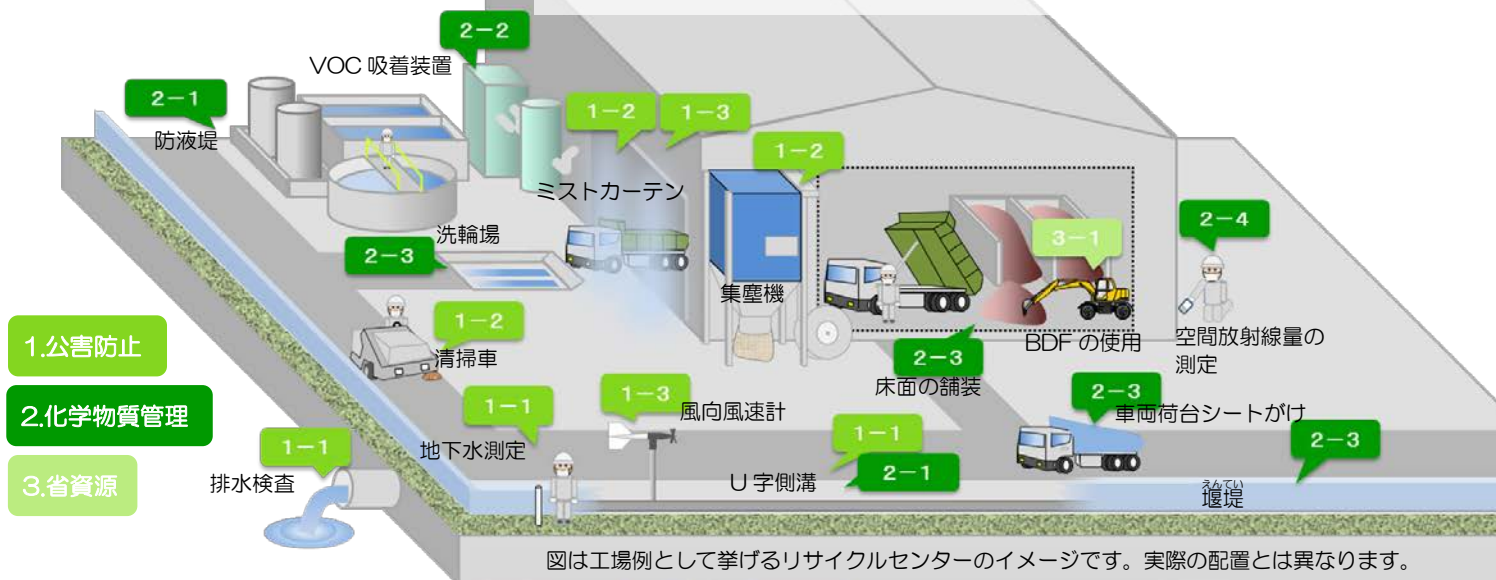
### 各工場

リサイクルセンター(RC)：汚染土壌処理、産業廃棄物中間処理

(土壌・産廃の分級及び改質、土壌の揮発性有機化合物(VOC)除去及び洗浄(名古屋のみ))

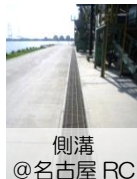
グリーンアローズ(GA)：廃石こうボードの破碎、分別、土壌固化材生産

バイオエネルギーセンター(BEC)：廃食油からのバイオディーゼル燃料(BDF)生産



### 1-1 水質管理

リサイクルセンター(RC)では敷地内境界線に U 型側溝を設け、粉じんや汚染土壌の雨水による流出防止をしています。また、処理廃水(名古屋 RC)や雨水排水、地下水を定期的に検査し、有害物質漏洩が無いことを確認しています。



#### VOICE 社員から

横浜リサイクルセンター(RC)では、雨水のpHが高くなる傾向があることから、2013年2月に排水処理施設を更新いたしました。当施設は場内の側溝から集まった雨水のpHを常に監視し、基準値を超えると自動で硫酸を投入、中和してから放流します。更に放流前の雨水のpHは毎日作業員が点検しています。横浜RCは場内雨水が下水処理場を経ずに直接河川に入るため、特に注意を払っています。



### 2-1 薬品・可燃物の管理

各工場で使用する薬品・可燃物タンクにはすべて防液堤を設置し、在庫確認による厳重な管理を行っています。またタンクの大きさをできるだけ小さくして、万一の事故時のリスク軽減にも考慮しています。

#### VOICE 社員から

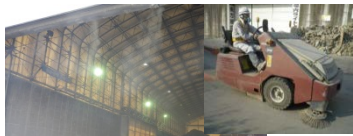
名古屋 RC では重金属洗浄の過程でpH調整や凝集沈殿に薬品を使っています。防液堤から万が一あふれた場合でも施設外周にある側溝で回収できるという二重の漏洩防止構造になっています。また毎日、数量、タンク・配管の破損の有無、漏洩の有無を確認し、事故防止に努めています。





## 1-2 粉じん管理

土壌を扱う RC と廃石膏ボードを扱うグリーンアローズ (GA) では、粉じんの発生抑制のため、集じん機を導入し (GA)、清掃車で場内床面を清掃しています。また、建屋内から粉じんを出さないよう出入り口にミストカーテン (RC) を導入しています。



ミストカーテンと清掃車@横浜 RC



積み込み中の散水@GA

### VOICE 社員から

当工場は、石膏ボードの破碎を屋内で行っていますが、どうしても一部粉じんが屋外に持ち出されます。昨年より、より強力な集じん機を新しく導入いたしました。これにより工程からの飛散が減り、車両による床面の粉じん持ち出しも減りました。屋内環境が良くなったおかげで作業効率も上がったようです。



GA 中部 工場長  
松澤 友治



集塵機@GA 中部

## 2-3 汚染土壌の管理

各リサイクルセンターは、敷地境界には堰堤<sup>えんてい</sup>を設け、床面はコンクリート舗装になっており、汚染土壌が拡散及び地下浸透しないような構造となっています。また、搬出入のダンプには荷台にシートをかけ、洗輪場でタイヤを洗浄して退場してもらい、汚染物質の拡散を防ぎます。



洗輪場@大阪 RC



土壌ヤード@横浜 RC

## 1-3 臭気対策

当社各 RC では、臭気の強い土壌の搬入があった場合には、場内のミストに消臭剤を入れて臭気の抑制を図っています。また、毎日の構内点検で臭気の状態を確認し、特に横浜 RC では風向風速計を用いて風の状態を調べて、敷地外へ悪臭を出さないよう



風向風速計@横浜 RC

## 2-2 揮発性有機化合物 (VOC) の管理

RC では VOC 汚染土は、密閉構造で負圧管理できるヤードに搬入しています。薬剤により土壌温度を上げて VOC を揮発させ、それを吸引して活性炭に吸着させます。VOC が大気中に拡散しないように、活性炭が破過 (吸着飽和) していないかを処理の都度検知管により確認し、定期的に外部の分析業者に依頼して排気ガスの成分を測定しています。



VOC ヤード@大阪 RC



検知管による検査

VOC 吸着装置@横浜 RC

## 3-1 BDF の積極的な使用

当社では、BEC で製造したバイオディーゼル燃料 (BDF) を名古屋各工場で積極的に使用しています。

### VOICE 社員から

GA 中部では、重機を 6 台使用していますが、そのうち 5 台で BDF を使用しています。BDF は一般的に凝固点\*が高めと言われていたため、冬季に不具合が起こるのではないかと懸念もありましたが、そのようなトラブルもなく、現在まで問題なく運転できています。コストはやや高くなりますが、環境によいものを選んでいきます。



GA 中部 副工場長  
廣部 知治

\*液体から固体になる温度

## 2-4 空間放射線量の測定

横浜 RC では、従業員、周辺工場の方々、処理後の土壌・産廃受入施設の方々の健康・安心のため、受け入れた土壌と産廃及び工場内の空間放射線量を毎日計測しています。また、従業員は自主的に半年に一度電離放射線健康診断を受けています。



## 土 壤 汚 染 調 査 及 び 対 策 工 事 現 場

### 工事騒音・振動防止

調査や対策工事の際、騒音・振動により周辺住民のみなさまに迷惑をおかけすることがないように、防音シート設置、低騒音型の作業機械の使用、作業時間の厳守に努めています。



デジタル騒音計



防音シート

### VOICE 社員から

工事を行う場合、周辺住民のみなさまには、1-2 か月前に工事内容に関するお知らせをお配りし、必要に応じて工事説明会を開いてご理解をいただけるようにしています。工事は夕方五時までには終わるように気を付けていますね。また、現場によっては粉塵が発生することがあり、そのような場合にはホースで散水し、周囲に飛散しないようにしています。



関西事業部 技術課  
坂本 敬

### 汚染拡大防止

掘削した土壌は、飛散防止・雨水による汚染物質浸透防止のため、搬出までシートによる養生を行っています。また、揚水した地下水は現場にプラントを設置し、水処理を行っています。



シート養生



現場での水処理



散水による粉塵飛散抑制(左)、粉塵計(右)

## 環 境 分 析

### 毒劇物管理

分析業務では、毒劇物や有機溶剤を使用します。当社では、毒劇物管理規定を定めて毒劇物取扱責任者の下、発注・入荷・使用し、徹底した管理(台帳記入の徹底、施錠保管)を行っています。また分析時に発生する廃液や分析後の試料は系列会社である株式会社ダイセキや当社リサイクルセンターで適正に処理をしています。



毒劇物の施錠保管



台帳による数量管理

### 放射能測定

放射能汚染のおそれのある試料については、環境分析部で受け入れる前にシンチレーションサーベイメーターで自社受入基準に適合しているかチェックをしています。適合しないものは送り返すルールになっています。



シンチレーション  
サーベイメーター



土壌資料の放射能  
計測



営業

適正処理推進

当社にお任せいただける汚染土壌や産業廃棄物が増えるということは、日本におけるそれらの適正処理が拡大することにつながると考え、営業活動を行っています。

VOICE 社員から

営業課では調査や工事の受注だけでなく、調査と対策を行う技術課、環境分析部、及びリサイクルセンターとお客様とをつなぎ、調査や対策の計画と報告をお客様に行っています。お客様のニーズと法律の要求に過不足なく添えるように、また、掘削除去・処理後の土壌はなるべくリサイクル処理ができるように各部署やセメント会社との調整を行っています。



名古屋事業部 営業課  
高橋 豊史

営業車の燃費改善

ひとつの事業所の担当する範囲は広く、ときには半日近く車を運転することもあります。営業車によるCO<sub>2</sub>排出量の削減のために、アイドリングストップを推奨していましたが、現実的にはなかなか徹底ができないため、営業車更新の際にはハイブリッド車等、燃費のよい車を採用しています。



オフィス

グリーン購入・ゴミの分別・節電

オフィスでは、事務用品をカタログで選ぶにあたり、用途が同じ物であれば、「エコマーク」「グリーン購入ネットワーク(GPN)掲載マーク」「グリーン購入法適合マーク」のついた商品を選んでいきます。またオフィスでもゴミの分別を徹底しております。節電のため、昼休みには消灯、冷暖房は必要なときのみ利用し、夏場は28度、冬場は20度に設定しています。



東京本社



ゴミの分別

グリーン購入法

GPN 掲載

当社がグリーン購入の基準としているマークと目標シート



東京事業部グリーン購入目標

16期目標  
東京事業部における文具等のグリーン購入金額の割合を72%以上とする

16期実績	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1年
目標金額(円)	28,477	29,248	45,428	46,192							
実績金額(円)	28,477	29,248	26,744	28,914							
達成率(%)	100	100	59	63							
目標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

16期実績	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1年
目標金額(円)	28,477	29,248	45,428	46,192							
実績金額(円)	28,477	29,248	26,744	28,914							
達成率(%)	100	100	59	63							
目標	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

輸送にかかわるエネルギー量削減の取組

各工場では土壌等の搬入出を委託している運搬会社の方々に、燃費改善の協力を呼びかけ、また搬入物・量・トラック台数の事前連絡を徹底していただいています。これによりRCやGAにおける処理計画をしっかり立てることができ、場内でのトラックや重機の無駄な動きをなくすことで、使用燃料やCO<sub>2</sub>排出量の削減につなげています。また出荷物も計画的に、効率よく運んでいただけるように努めています。



GA 中部に、ヒヨドリが巣を作っていました。これも、日ごろの環境負荷への取組(粉じん対策)の賜物かもしれません。

## コーポレートガバナンス

当社は、健全で透明性が高く、経営環境の変化に迅速かつ的確に対応できる経営体制の確立を最も重要な経営課題のひとつと考えております。

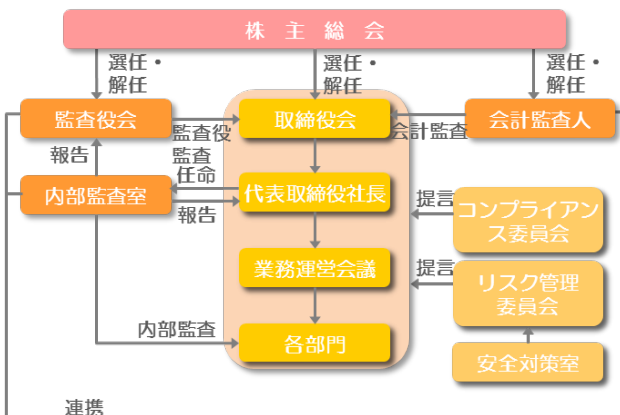
経営監視機能を充実させるために、社外監査役3名を含む4名の監査役体制で監査役会を構成し、原則毎月一回監査役会を開催しています。

また、迅速で的確な意思決定と効率的な組織運営のために、原則月1回の取締役会を開催しています。さらに、より機動的な経営課題に対応すべく、経営幹部層による業務運営会議を月2回開催しています。

### 内部統制体制

内部統制システムの整備及び運用に関する事項を取締役会で決定しています。その適切な運用を図るために、内部統制システム推進委員会を設置しています。推進委員会は代表取締役社長自らが委員長を務め、各所管部署の責任者を指揮監督することにより、業務の適正を確保し、財務報告の信頼性の確保に向けた取り組みを推進しています。

また、内部監査については内部監査室より各部署への定期・不定期の監査を実施しており、内部監査室長は代表取締役社長に対して当該監査結果を速やかに報告するとともに、是正すべき事項がある場合は代表取締役社長が直ちに是正措置を講じるべく改善指示書を出し、業務改善に努めています。

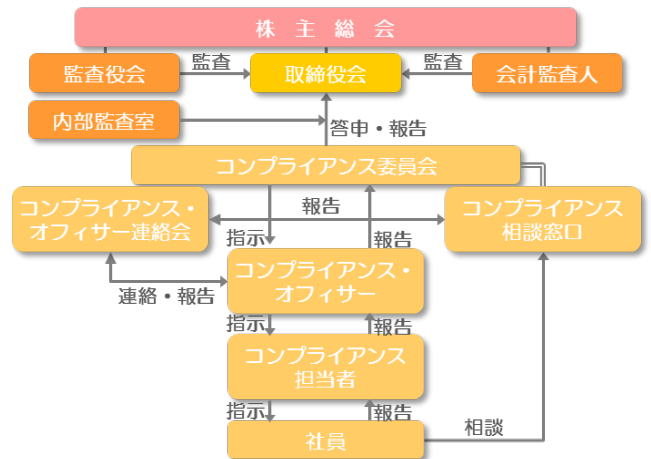


内部統制組織

## コンプライアンス

### コンプライアンス体制

コンプライアンス委員会は、社長を委員長として、委員として環境事業本部長、企画管理本部長、東京本社取締役から構成され、コンプライアンスの意識を組織全体に浸透させるための各種施策の立案と浸透状況の点検を目的としています。また、企画管理本部管理部総務課にコンプライアンス相談窓口を設けて、コンプライアンスについての一般相談（セクハラ、贈答品の授受、自社株売買など）や通常のコンプライアンス推進の流れでは取り組みが困難な場合について、相談を受け付けて問題解決に努めています。

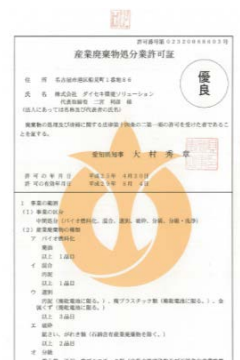


コンプライアンス体制

また、当社は産業廃棄物を扱う業者として特にコンプライアンスを重視しています。コンプライアンスを含め適正処理業者の証である、優良産廃処理業者認定\*を、延べ8自治体（5都道府県+3市）から受けています(2012年3月末現在)。

\*優良産廃処理業者認定制度：

- 1.実績と遵法性、2.事業の透明性、3.環境配慮の取組、4.電子Manifesto導入、5.財務体質の健全性、といった通常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした産廃処理業者を都道府県・政令市が審査して認定する制度。





## 教育

当社が行っている業務では、廃棄物や有害物質、危険物を取り扱います。それらは法令により取り扱いが厳しく規制されており、業務には専門的な知識が必要とされております。当社では社員一人ひとりに必要な教育を行い、法令の遵守や事故の防止に努めています。

### 入社時教育

新入社員には会社全体の業務内容が理解できるように、各部署の担当者が講師となって業務やISOについて、実務を含めた教育を行っています。これにより、当社業務の社会における位置づけの理解と、その担い手としての自覚を促しています。

### 作業基礎教育・能力認定

当社の行う汚染土壌処理や、収集運搬作業の基礎能力教育を該当者に対して実施し、基礎教育後に実習とテストにより、能力認定を行っています。該当作業については、「一人で安全に正確な作業が出来るようになった者」として社内認定された者が行うようにしています。

### 資格取得の推進

公害防止管理者等、法律に定められた資格について、奨励金制度を設けるなど、社員の資格取得を支援・奨励しています。これより、社員の自覚も高まり、会社の資質も向上すると考えています。特に取得が推奨される資格については、受験料、テキスト代等の補助だけでなく資格保有者を講師とした勉強会を実施しています。2012年度の資格保有者の延べ人数は、前年度から4名増えて192名になりました。

### 環境啓発教育

環境問題への関心とISO14001の理解を深めるため、全社員を対象に環境啓発教育を行っています。最近話題の環境問題をテーマにしたり、本報告書をテキストにしたりと社員の環境への意識向上に努めています。

### VOICE 社員から

入社時教育では、座学だけでなく、名古屋の各工場にも見学に行きました。普段は本社勤務ですが各工場とは経理や備品発注のやりとりがありますので、工場の方々とお会いし、作業を見ることで、仕事に対する責任感がより高まりました。また、各工場や事業の責任者の方に詳しく業務内容を説明してもらい、当社の事業が身近になりましたし、環境関連事業への関心が深まりました。



企画管理本部 管理部  
経理課 北原 真帆

資格名	人数
特別監理産業廃棄物 処分課程	17
特別監理産業廃棄物 収集運搬課程	17
特別管理産業廃棄物管理責任者	6
破碎・リサイクル施設技術管理者	1
産業廃棄物中間処理施設技術管理者	1
土壌汚染調査技術管理者	13
土壌環境監理士	4
土壌環境保全士	20
土壌環境リスク管理者	30
地質調査技士	15
技術士	3
技術士補	6
一級土木施工管理士	12
一級建築施工管理士	1
環境計量士（濃度）	5
環境計量士（騒音・振動）	2
一般計量士	1
水質関係第一種公害防止管理者	17
水質関係第二種公害防止管理者	1
大気関係第一種公害防止管理者	2
大気関係第二種公害防止管理者	4
ダイオキシン類関係公害防止管理者	5
危険物甲種	5
放射線取扱主任者	2
環境カウンセラー（事業部門）	1
環境カウンセラー（市民部門）	1

### 社員の保有資格と取得人数

（平成25年3月末時点）

## コミュニケーション

汚染土壌や産業廃棄物を扱う当社において、投資家様、お取引先様、地域の方々等ステークホルダーの皆様との信頼関係は最重要課題の一つです。今後も更なる信頼関係構築に向けて、皆様とのコミュニケーションを図ってまいります。

### 投資家様とのかかわり

当社では、IR 説明会を当社の健全経営をステークホルダーの皆様を示す場所と考えて積極的に開催しております。また、従業員が株主となる持株会制度も整備しています。

### お取引先様とのかかわり

当社には、取引先の皆様から、処理をお任せいただいているという責任があります。汚染土壌の処理を行っている名古屋リサイクルセンター(RC)や、廃食油をリサイクルしているバイオエネルギーセンター(BEC)などの施設見学を随時おこない、取引先の皆様には、安心して処理を委託できる会社であることをご納得いただいています。



### 地域の方々とのかかわり

RC、BEC 及び関連会社である(株)グリーンアローズ中部では、地域住民の皆様や、学校などの団体による施設見学、およびインターンシップ受け入れ等を随時開催しています。今後も、地域の皆様とのコミュニケーションをより深いものにしてまいりたいと思います。

### INTERVIEW お客様から

弊社では、(株)ダイセキ環境ソリューションのバイオディーゼル燃料(BDF)を工場の重機類及び関連会社の重機と運搬車両に、グリーンアローズ中部の土壌固化材を道路工事などに使用しています。



サンコーリサイクル株式会社  
環境部長 金田 琳 様

BDF はどうしてもエンジン用のパッキン等のゴムの劣化が早いのですが、その説明もしっかりされていますし、工場がお隣なのもあり、頼まなくても様子を見に来てくださいます。BDF はカーボンニュートラルなので、工事の重機に使うと発注元からの評判がいいですね。

固化材は、弊社用に特別にブレンドしていただいています。これまで使用していたものよりも、臭気がずいぶん軽減できており、価格も手頃で、工事単価の引き下げにも役立っています。

BDF、固化材ともに、トラブルなく安定的に供給していただけることで、事業計画を安心して立てることができて、助かっています。



当社の解現場の廃家屋を救助訓練の場として消防署に提供いたしました。

みなさまとのかかわり(情報開示)

産廃情報ネット等による情報開示

(財)産業廃棄物処理事業振興財団が運営する産業廃棄物情報サイト「産廃情報ネット」にて、処理業の優良性の判断に係る情報開示および許可取得状況開示を行っています。また、愛知県ホームページにおいて、再生資源の適正な活用に関する要綱に基づく情報を掲載しております。



■会社情報

会社名 (個人の場合は氏名) 株式会社ダイセキ環境ソリューション

■許可取得状況

優良産廃処理業者認定制度で優良認定を受けている許可認可は  がついています。

許可区域	業の区分	許可番号	許可期限日	優良認定日
栃木県	産業廃棄物収集運搬業	00900068603	平成26年01月08日	
埼玉県	産業廃棄物収集運搬業	01101086603	平成27年02月15日	
千葉県	産業廃棄物収集運搬業	01200068603	平成26年02月01日	
東京都	産業廃棄物収集運搬業	13000068603	平成25年11月24日	
神奈川県	産業廃棄物収集運搬業	01403086603	平成29年02月02日	平成28年07月21日
横浜市	産業廃棄物収集運搬業	05610068603	平成29年01月31日	平成29年06月10日
横浜市	産業廃棄物処分業	56200068603	平成29年09月30日	平成29年06月10日

産廃情報ネット さんばいくん(産廃処理業者検索)  
<http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/index.php>  
 (平成 25 年 7 月末現在)

土壌汚染対策法に基づく指定調査機関の情報開示

自社ホームページにおいて、環境省の「土壌汚染対策法に基づく指定調査機関の情報開示に関するガイドライン」に従って、調査実績、技術力(資格者数等)などの情報を開示しております。



環境省ガイドラインに基づく情報開示

産廃情報ネット

環境・社会報告書

(株)ダイセキ環境ソリューション ホームページ  
<http://www.daiseki-eco.co.jp/>  
 (平成 25 年 7 月末現在)

環境・社会報告書

毎年、社員で委員会を編成し、たくさんの皆様に当社の魅力が伝わるよう思いを込めて、この環境・社会報告書を企画作成し、発行させていただいております。



社内でのかかわり

社内インターンシップ制度

年に1回、希望者が2週間程、他部署での業務を体験することが出来る制度です。会社全体の業務内容のより深い把握や、他部署とのコミュニケーションを図る良い機会になっています。

VOICE 社員から

平成 24 年の社内インターンシップで企画管理本部の経理課の仕事を経験しました。

きっかけは、自分の仕事社内での様な位置づけであるのかを確認したかったからです。この制度を利用したことによって、会社という組織の中での管理課の役割と、経理課との関係について理解できました。特に、伝票とそれに伴うお金の流れがよく判りました。こうした体験ができることは大変貴重だと思います。



名古屋事業部 管理課 三宅宏美





## 安全衛生

私たちは、『安全は全てにおいて優先する』を事業活動における基本理念として、社員が一丸となって事故の防止、労働災害・健康障害ゼロに向けた安全衛生管理に取り組んでいます。

### 活きた情報を基にした安全管理活動

私たちは、平成 18 年度に発生した 2 件の休業災害\*を契機に、安全衛生管理についての取り組みを本格的に開始し、現在に至っています。

以降、物損事故や赤チン災害といえども、危険の芽ととらえ、遅滞なく報告することを会社のルールとして定めています。また、必ずその原因を追求すると共に再発防止対策を検討し、その結果を全社に周知することとしています。これらの情報展開が、類似の災害防止対策となり、会社の財産になると考えています。

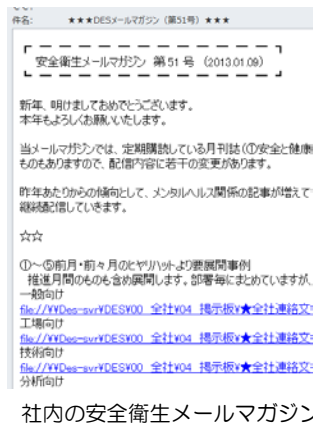
\*休業災害：負傷または疾病の療養のために被災日の翌日から休業せざるを得ないような労働災害。

### 人的資源に最重点を置いた衛生管理活動

私たちは、働く仲間の心と身体の健康を、かけがえのないものを最重点課題、ととらえ、衛生管理活動に取り組んでいます。

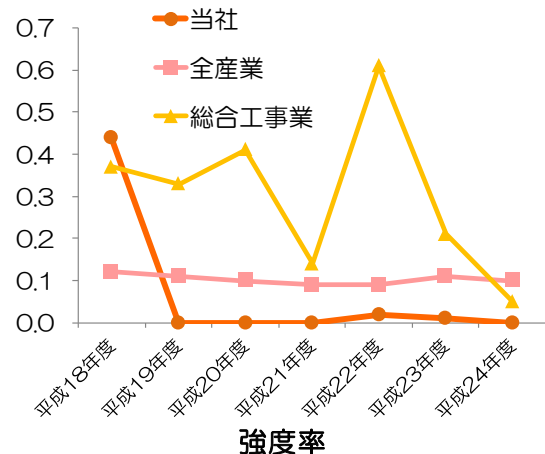
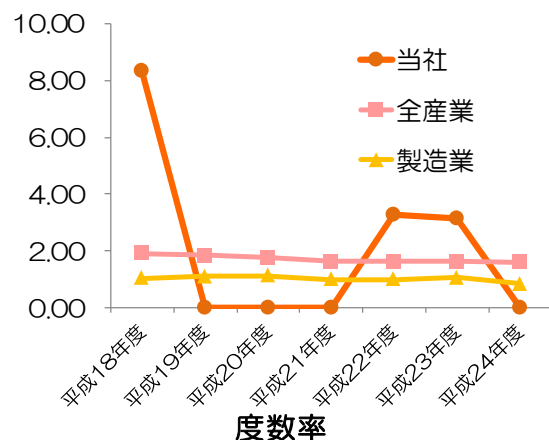
具体的な活動としては、社内メールマガジンで、熱中症対策やインフルエンザ対策の季節的な題材を含め、衛生管理に関する情報をタイムリーに、社員全員に発信しています。また、

新たな技術・製品等の紹介等も併用し、健康障害を未然に防ぐ方策としています。



### 平成 24 年度の実績

平成 24 年度の休業災害は 0 件でした。平成 18 年度(2006 年)から平成 24 年度(2012 年)に発生した休業災害の度数率、および強度率の推移を下のグラフに示します。



度数率：  
100 万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数  
(災害発生の頻度)

強度率：  
1,000 延べ実労働時間当たりの労働損失日数  
(災害の重さの程度)

(厚生労働省 労働災害動向調査 定義に基づく)

## 安全パトロール

各部署の安全衛生担当者及び安全対策室の担当者がリサイクルセンター等工場には月に一度、また調査や対策工事の現場にも、特に一か月以上の長期の工事及び危険作業が伴う場合には必ず、パトロールを行っています。パトロールでは、現場で労働安全衛生法等の法令違反がないことを最も重視し、更には事故につながりかねない作業などがどうかを確認して、万が一あった場合にはその指摘を行います。

## ヒヤリ・ハット活動

ヒヤリ・ハットは結果的に事故につながらなかったため、「ああよかった」とすぐに忘れられがちですが、重大な事故の前には多くのヒヤリ・ハット事例が潜んでいると言われており、その事例の収集、分析、再発防止、共有が事故の防止につながります。

当社では改めてヒヤリ・ハット報告書を提出する習慣を意識しなおすために、年に2回の強化月間にヒヤリ・ハット報告書を全社員が提出しています。部門や事業所が離れていても危険の芽への気づきを共有して、全社で事故を未然に防ぐことができる体制をつくっています。

## 安全標語

毎年全社員から安全に関する標語を募集し、垂れ幕をつくり、各事業所に掲示して社員の意識向上を図っています。平成24年度の標語は

「身の回り 整理整頓 心がけ  
みんなで摘み取れ 危険の芽」 でした。

名古屋リサイクルセンターのヤードの壁にかけられた安全標語の垂れ幕  
(安全朝礼中の風景)

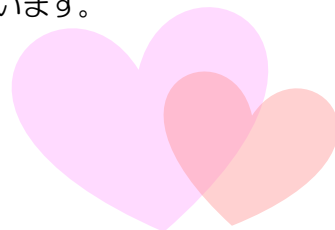


## リスクアセスメント

まず作業の手順書から危険行為を認識し、その危険に対するリスクを①頻度、②可能性、③重大性の3種類の因子により判定します。次にそのリスクが許容できないものであれば、対策を講じて作業手順書に盛り込むというサイクルで行います。毎月各部署における安全部会で定期的実施し、三か月に一度の各事業部の安全衛生活動で活動状況のチェックを行っています。

## メンタルヘルスケア

当社では、各部署の管理者が外部のメンタルヘルスケア講習を受講しています。今年度は全社員に対してメンタルヘルスに関するアンケートを実施し、自身の状態の把握の促進と、また部署ごとの傾向を発表して全体の啓発を行いました。また、メンタルヘルスを向上させる有効な手段のひとつであるワーク・ライフ・バランスを労働時間面から改善するために、残業及び休日出勤時間の集計から、基準を超えた社員については所属長による面談を行ない、状況の把握と改善を行っています。



## 事業形態に応じた安全衛生活動への転換

私たちの事業で取り扱うものは、汚染土壌から始まり石膏ボード、バイオディーゼル燃料と多様化しています。

それぞれの事業形態に応じ、安全衛生に関する視点や重点対策も異なったものになります。

今までは全社統一的な安全衛生活動を実施していましたが、これからは事業形態に応じた安全衛生活動を実施するよう、私たちの活動も転換期を迎えています。

## 働きやすい職場づくり

社員は会社の財産です。当社は、社員が健康に、また能力を十分に発揮していきいきと働くことが出来る職場づくりを目指して、様々な制度の整備を行っています。

### 社員の安全と健康

当社は社員の安全と健康を守るために、以下のことを行っております。

- ① 35歳以上の定期人間ドック受診・35歳未満の定期健康診断の受診。
- ② 特殊作業従事者の定期特殊健康診断の受診
- ③ 全社員の過重労働対策。
- ④ 本人及び扶養家族へのインフルエンザ予防接種費用補助。



### 業務外の生活へのサポート

当社は「ライフサポート倶楽部」に加盟しています。旅行やレクリエーション、住居、資格や自身のスキルアップまで、生活にかかわる面で優待サービスを受けることが出来ます。

### 制度整備

その他に、社員が能力を発揮し、またライフワークバランスをとりながら働けるように、下記の制度を整えています。

#### ○提案制度

社員一人一人の改善意識、問題解決能力の向上と、会社業績への貢献を目的に提案制度を設けています。各部署の社員が自由な発想で提案をし、業務の改善に役立っています。

#### ○自己申告制度

毎年、業務内容や配置転換の希望を社員全員から聞く機会を設けています。

#### ○目標評価制度

年2回、社員ごとに業務上の目標を設定し、その達成度を評価しています。

#### ○時短制度

保育園の送迎など、勤務時間をずらすことによって子育てを応援する制度です。

#### ○ブラザー制度

新入社員が、職場に早く慣れるように、年齢の近い先輩がサポートする制度です。

#### ○従業員持株会制度

社員の中長期的な資産形成を応援しています。

### 健康づくりの応援

様々なスポーツのサークル活動を支援・推奨し、社員の健康づくりや社員間の交流を側面からサポートしています。

#### 【テニスサークル】

グループ会社(株)ダイセキのサークルと合同で練習を行っています。年に一度、合宿も行っています。



#### 【スキーサークル雪うさぎ】

(株)ダイセキと合同で行うスキーツアーです。社員の家族も参加し、毎年楽しい歓声が絶えません。



#### 【ゴルフサークル悠雄会】

腕、年齢、役職に関わらず、多くの社員が参加しています。





## 社会貢献活動

当社は、地域社会の一員としての自覚を持って事業展開をしております。そのための取り組みのひとつが「社会貢献活動」です。持続可能な社会の構築を地域社会の一員として取り組んでまいります。

### 工場周辺の清掃活動

日頃お世話になっております地域の皆様に少しでもお役に立ちたいという思いから、定期的に、社員が工場や事業所周辺の清掃活動を行っております。

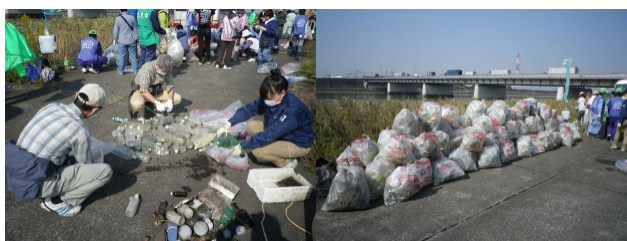


名古屋本社

名古屋リサイクルセンター

### 藤前干潟清掃活動

名古屋本社では、2011年から、藤前干潟清掃活動への参加を社員に呼び掛けています。今後も、業務外の社会貢献活動にも会社として参加して参ります。



### 切手収集

当社では、海外の保健医療事情に恵まれない地域の医療の一助になればとの思いから、古切手の回収をしております。



### チャレンジ25キャンペーンへの参加

環境省が主催するチャレンジ25キャンペーン\*に参加しています。冷暖房の温度管理やクールビズ、ウォームビズを実施し、地球温暖化防止に取り組んでいます。

\*2009年の国連気候変動サミットにおける、鳩山元首相の「日本の温室効果ガスの排出量を2020年までに1990年比で25%削減する」という発言を受け、環境省が2010年にスタートしたプロジェクト。



ネクタイ代わりにのバッジ

(グリーンアローズ九州)

### エコキャップ運動

ペットボトルのキャップはポリプロピレンで、ボトル本体と材質が違います。このキャップのみを回収し、リサイクルから得られる利益で発展途上国へのワクチンの寄付に使われています。2010年夏から始め、累計26,610個が集まり32.7人分のワクチンになっています。



会社として社会貢献活動への参加を呼び掛けている他、社員からの紹介や提案を採用して、今後、活動の一層の充実を図って参りたいと思っております。





## 第三者コメント



国立大学法人 豊橋技術科学大学  
グローバル工学教育推進機構  
国際交流センター 教授  
(大学院工学研究科 環境・生命工学系 兼務)

だいもん ひろゆき  
大門 裕之 氏

(株)ダイセキ環境ソリューションの産業廃棄物の資源化に対し、常日頃から革新的な事業展開を進められていることを、様々な角度や立場において以前から耳にしており、敬意を表して、この第三者コメントを執筆させていただきます。

まず、この報告書は毎年、一年目の新入社員が中心となって記事執筆及び編集を行っておられるということに驚きました。同時に、これは、非常によいシステムであると感じました。新鮮な気持ちと目で会社全体を観察し、感じ、考え、その結果を報告すると云うものです。新入社員の教育効果は抜群であろうし、他の社員には大きな刺激を与えるものとなっていることでしょう。

今年の報告書に目を通して、最初に感じたことは、基本的な報告書のコンセプトは守りつつ、写真を含めて、ほぼ全てを改善および更新している点です。その他、様々な箇所に工夫も見受けられます。例えば、三つの構成部分を色分けし形式を統一して、これまで以上にその位置づけを明確にした点、業界（専門）用語に対する注釈の数が格段に増えた点、社員インタビューの数が格段に増加し多様性も増した点などです。また、会社の主

な業務である「土壌汚染対策事業」の説明を拡充した点、社会の関心が高い「津波堆積物減容化事業」が丁寧に作られている点も評価できます。

上記の工夫からは、非常に幅広い読者（読んでもらいたい人）にできる限り添うための努力の結果と見受けられます。この種の業界は、一般市民には馴染みが薄く、関連性も低いことから、まずは、分かりやすさを一番に考えたのでしょうか。これであれば、就職活動をしている学生や顧客に対して、すなわち、一般のすべての人を対象とすることができます。また、社内においては、他部署の取り組み内容を共有させることにより、モチベーションや社会への使命感やコンプライアンスの再認識、そして、何よりも会社のすばらしさや誇りを明確に再認識することができるのではないのでしょうか。

一方、製作者の想いの強さが伝わってきますが、各ページの情報量が過多であるような気がします。ページ数に制限がないのであれば、もう少しページ数を増加し、読み易さ（気軽さ）を考へてもよいかもしれません。いずれにせよ、この報告書により、新しい風を社内外に吹かせることができることを祈念いたします。

### プロフィール

豊橋技術科学大学で博士（工学）を取得。2013年より現職。

専門は環境化学工学。生態恒常性の高い社会の構築を目指し、廃棄物リサイクル・バイオマス利活用技術の開発および評価を行っている。

低炭素循環型社会の構築に向けて、各ステークホルダーとの連携や制度的隘路の克服により、新しい社会システムを創造し、廃棄物処理に対する日本の高い理念や文化と共に海外へ展開して、世界における日本の存在感を向上させることに励んでいる。

# 事業所別環境測定データ

リサイクルセンター(RC)：土壌の分級、改質、揮発性有機化合物(VOC)除去、洗浄(名古屋のみ)

グリーンアローズ(GA)：廃石膏ボードの破砕、分別、土壌固化材生産

バイオエナジーセンター(BEC)：廃食油からのバイオディーゼル燃料(BDF)生産

## エネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量

事業所	CO <sub>2</sub> 排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	電気・ (千kWh)	都市ガス (m <sup>3</sup> )	ガソリン (kL)	軽油 (kL)	重機専用燃料 (SAB) (kL)	灯油 (kL)	BDF (kL)
名古屋本社	266	416	24,432	18	6	-	-	-
名古屋RC	622	730	15	1	130	-	1.0	54
BEC	66	63	22	2	<0.1	-	14.9	11
GA中部	410	909	7	1	25	-	-	12
東京本社	28	23	-	8	-	-	-	-
横浜RC	480	192	-	-	1	162	-	-
関西支社・大阪RC*	448	181	-	14	132	-	-	-
合計	2,320	2,514	24,475	44	293	162	15.9	77

\*関西支社と大阪RCは同じ敷地内に建物があるため、まとめて集計しています。

## 水質データ

事業所	pH		BOD (mg/L)		COD (mg/L)		SS (mg/L)		n-Hex (mg/L)	
	基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値	基準値	実測値
名古屋RC①*	5.8~8.6	8.0	160	3.0	-	-	200	24	5	<1
名古屋RC②*		7.7		1.0		-		11		<1
横浜RC①*	5.8~8.6	7.1	-	-	130	3	160	<5	5	<1
横浜RC②*		7.1		-		33		10		<1
大阪RC	5.0~9.0	8.3	600	1.0	-	-	600	25	5	3

\*名古屋RCと横浜RCは二か所で計測しています。

## 大気汚染物質データ (土壌汚染対策法に即した項目)

	カドミウム及び その化合物 (mg/m <sup>3</sup> N)	塩素 (mg/m <sup>3</sup> N)	塩化水素 (mg/m <sup>3</sup> N)	臭素、 臭化水素及び 臭化けい素 (mg/m <sup>3</sup> N)	鉛及び その化合物 (mg/m <sup>3</sup> N)	窒素酸化物 (volppm)
許容限度	1	30	700	10	20	250
名古屋RC	<0.01	<1	<10	<1	<0.01	<20
横浜RC	<0.01	<1	<10	<1	<0.01	<20
大阪RC	<0.01	<1	<10	<1	<0.01	<20

	1,2-ジクロロエタン (volppm)	ジクロロメタン (volppm)	水銀及び その化合物 (volppm)	トリクロロエタン (volppm)	トリクロロフルオロ (volppm)	ベンゼン (volppm)	PCB (volppm)
許容限度	-	-	-	-	-	-	-
名古屋RC	<1	<1	<0.005	<1	<1	<1	<10
横浜RC	<1	<1	<0.005	2	<1	<1	<10
大阪RC	<1	<1	<0.005	<1	<1	<1	<10





## 環境・社会報告書 2013 のアンケート結果

「環境・社会報告書 2012」にもたくさんのご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。いただいたご意見を参考、また励みにさせていただき、本報告書を作成いたしました。良かった点としては、「特集記事で新規事業のことがよく分かった」、「絵や写真が多く、フォントも大きくなり読みやすかった」というコメントを多くいただきました。良くなかった点についてのご意見・ご要望と本報告書での検討・改善結果は以下の通りです。

項目	ご意見・ご要望	検討・改善結果
全体	各章のテーマが分かりづらい	一部のテーマの順番と構成を変え、またテーマごとに導入の部分により分かりやすく趣旨を書くように努めました。更に、離れたページ間で内容が近い記述にはページ番号を記し、テーマ間につながりを持たせました。
	専門的な用語が多い	当社の事業をご存じない方や他業種の方にもご理解いただけるよう、説明や注釈を増やすように心がけました。
	社外の方の声を入ると信頼感が増す	第三者コメント以外に、取引先(p.21)やパートナー企業(p.9)の方へのインタビューを行って参りました。
	現場の雰囲気もう少し伝わるようにしてはどうか	社員インタビューと工場や調査・対策工事現場、オフィスの写真を増やして現場の顔が見えるようにしました。
マスバランス (p.12)	記載内容だけでは意味が分かりにくい	各事業のINPUTからOUTPUTへの内容を記しました。また、燃料別エネルギーは熱量に換算して単位をそろえ、搬入とエネルギーの内訳を円グラフにして、各搬入物及び各エネルギー資源等の当社における影響の大きさを比較しやすくしました。
	経年変化が知りたい	前年度比を記載いたしました。
環境負荷と取組 (p.15-18)	有害物質管理の記事をもう少し詳しく報告して欲しい。	昨年度の「有害物質管理」「現場管理」のページを「環境負荷と取組」のページとし、特に工場と調査・対策工事での取り組みを拡充しました。

まだまだ未熟な点が多いかと思いますが、今年も巻末にアンケートを用意いたしましたので、ご意見・ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

## 編集後記

当社の環境・社会報告書 2013 をお読みくださり、誠にありがとうございました。また、本報告書の制作にご協力を賜りました全てのみなさまに心から御礼申し上げます。

取材中には当社社員やパートナー及び取引先企業の方々のお話を聞いて、業務に対する熱い思いや現場の細やかな配慮を知り、それらを広くお伝えしたいという思いを強くいたしました。本報告書が多くの方の目に触れ、当社の事業及び取組、またこの業界についてご理解いただけましたら望外の喜びです。

今後も、環境及び社会に対する取組を一層充実させていくとともに、みなさまとのコミュニケーションの手段のひとつである環境・社会報告書をよりよいものにして参りたいと思います。

(株)ダイセキ環境ソリューション  
環境・社会報告書 2013 編集委員一同



## アンケート用紙

環境・社会報告書 2013 をお読みいただきありがとうございました。  
よろしければ、本アンケート用紙にご回答いただき、皆様のご感想をお聞かせ下さい。  
皆様からのご意見を今後の報告書の改善に役立てていきたいと思っております。



株式会社ダイセキ環境ソリューション

環境事業本部 技術開発部 環境課

アンケート用紙の送付先 FAX : 052-611-4022

E-mail : info@daiseki-eco.co.jp

### 1. 本報告書を読まれたの感想をお聞かせ下さい。

#### ①報告書の構成

- 1) 分かりやすさ       分かりやすい       普通       分かりにくい  
2) ページ数・情報量       多すぎる       適当       少なすぎる

報告書の記事の中で不足していると思われる点がありましたらご記入下さい。

[ ]

#### ②取り組み内容

- 3) 環境について       評価できる       普通       評価できない  
4) 社会的責任について       評価できる       普通       評価できない

特に評価できるまたは評価できないところはどこでしたか？

[ ]

### 2. ダイセキ環境ソリューション環境・社会報告書について

#### ①本報告書のことをどちらで知りましたか？

- 当社ホームページにて       インターネット検索にて       当社営業マンより  
 マスメディア (      )       その他 (      )

#### ②当社環境・社会報告書 2012 は読まれましたか？

- はい      [ 比較して感想は？ ]       いいえ

### 3. ご意見・ご感想などご自由にご記入下さい。

[ ]

アンケートは以上で終了でございます。ご協力いただきありがとうございました。  
差し支えなければ下記にもご記入をお願いいたします。

ご氏名	性別	<input type="checkbox"/> 男性	年齢	歳
		<input type="checkbox"/> 女性		
ご所属（お勤め先・学校名など）			職業	
ご連絡先 TEL (      )			(      )	
E-mail @				
ご住所（お勤め先・学校名など）			<input type="checkbox"/> お勤め先 <input type="checkbox"/> ご自宅	

#### 【情報の取扱いについて】

個人情報、本アンケートに関する連絡にのみ利用させていただきます。  
トの内容は、今後の当社の取り組み改善や次回の環境

外への公表・開示は致しません。また、アンケートにのみ利用させていただきます。



**Daiseki**

株式会社 ダイセキ環境ソリューション

Daiseki Eco. Solution Co.,Ltd.